

海外研修旅行

1 日程

令和7年5月15日(木)～5月22日(木)

2 研修内容

◆5月15日(木) JR 岐阜駅～中部国際空港～ヘルシンキ～プラハへ

フィンランド航空にて経由地のヘルシンキへ向け、22時50分出発。乗り継ぎ後、現地時間5月16日の10時50分にプラハに到着した。

◆5月16日(金)

プラハ城・ドヴォルザーク博物館研修

プラハ城の聖ヴィート大聖堂の荘厳さに圧倒され、ドヴォルザーク博物館では使用していたピアノや直筆譜などの展示から、偉大な作曲家の存在を改めて実感した。

◆5月17日(土) プラハ音楽院のレッスンとプラハ市内研修

午前中はプラハ音楽院で個人レッスンを受けた。レッスンは1人45分で、英語、チェコ語による個人レッスンを受けた。レッスン後はプラハ市内研修を行った。現地ガイドの案内で旧市街広場、カレル橋等を歩き、プラハの歴史や文化について学んだ。夜にはエステート劇場にてオペラ『フィガロの結婚』を鑑賞した。

◆5月18日(日) チェスキー・クルムロフ研修～ザルツブルクへ

次の研修地、オーストリアのザルツブルクを目ざした。途中「ヨーロッパで最も美しい街」と評される世界遺産チェスキー・クルムロフを訪れた。絵画のような美しい街並みに感動した。

◆5月19日(月) ザルツブルク市内研修

ミラベル宮殿&庭園、モーツァルトの住居&生家、メンヒスベルクエレベーターに乗りホーエンザルツブルグ城を見た。昼食後、ゲトライゼ通りを班別研修した。その後、ウィーンへ移動した。

◆5月20日(水) ウィーン市内研修

シェーンブルン宮殿・パスカラッティハウス・シェーンブルン宮殿などを見学し、夜はウィーン国立歌劇場でオペラ『ノルマ』を鑑賞し本場の音楽にふれた。

◆5月21日(木) ウィーン市内研修～ウィーンから出国

シュテファン寺院・ヨハンシュトラウスの家美術史美術館を見学、楽友協会ガイドツアーに参加し、ウィーン発19:15の飛行機で帰路についた。

◆5月22日(木) ヘルシンキ～中部国際空港～JR 岐阜駅解散

3 生徒の感想より

3年生音楽科 岩田 紗来

私たちは5月に海外研修として、チェコとオーストリアにいきました。

チェコやオーストリアは日本と違って他国と陸続きなので、車ですぐに国境まで行くことができます。バスで移動していると、車窓から見る道路にさまざまな国の車が走っているのが印象的でした。

街中には大作曲家が住んでいた家、昔から使われている歌劇場などが現在も大切に保存されており、この地に住み音楽を作った人たちが今も愛されていることを実感しました。

その一方で、新しいものも受け入れて発展していくことの大切さも感じることができました。私たちが鑑賞したオペラ「フィガロの結婚」では現代版のアレンジやプロジェクションマッピングでの効果的な演出などは衝撃を受けました。新しいものと古くからあるものをどちらも尊重するという価値観に触れることができました。

昔から大切にされてきた音楽、そして自分自身が新しく培っていく音楽の感性のどちらも大切にして、これからも音楽を学び続けたいです。



オーストリア

憧れの街、音楽の都ウィーンを首都とするこの国は、今も昔も音楽に溢れています。有名な作曲家は、交響曲やソナタ形式の礎を作ったと言われる、フランツ・ヨーゼフ・ハイドン、神童と呼ばれるW.A.モーツァルト、生粋のウィーン子だったフランツ・シューベルトなどが挙げられます。

ザルツブルク

バロック建築の街並みが残る旧市街が世界遺産に登録されています。

モーツァルトの生家

モーツァルト自身が書いた貴重な自筆譜が数多く展示されており、当時モーツァルトが愛用していたピアノやヴァイオリン、日用品や家具も置いてあり歴史を感じることが出来ます。



ミラベル庭園

映画「サウンド・オブ・ミュージック」のロケ地であり、園内にあるペガサスの泉や「ドレミの歌」を歌った階段は、見所です！

ウィーン

シェーンブルン宮殿

ハプスブルク家の夏の離宮シェーンブルン宮殿。壮麗なバロック様式の外装と美しいロココ様式の内装で、6歳のモーツァルトが演奏した「鏡の間」は見どころです。



ウィーン学友協会

毎年、ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートが行われるこの場所は、「黄金の間」と呼ばれています。大好きなためカンタービレの聖地でもあるので死ぬまでに行ってみてみたい場所のひとつです。

[言語]

オーストリアではドイツ語が公用語とされています。

こんにちは Grüß dich (グリュース ディッチ)
ありがとう Danke schön (ダンケ シェーン)

↓ プラハ音楽院でのレッスンの様子



← ↓ 生徒による調べ学習レポート

↓ ミラベル宮殿の庭園にて



3年 新井 日葵

チェコ

首都はプラハです。歴史的な街並みと美しい自然が特徴的で、有名な作曲家は、「モルダウ」で有名なベドルジフ・スメタナ、「交響曲第九番“新世界より”」で有名なアントニーン・ドヴォルザークなどがあげられます。

[訪れてみたい場所]

プラハ城

戴冠宝物、チェコ歴代王の遺骨、貴重なキリスト教聖遺物、芸術資産、そして古文書など、歴史や文化に溢れた素晴らしいスポットです。



カレル橋

橋に沿って 30体以上の彫像が、橋を渡る歩行者をエスコートしています。そのどれもがバロック様式で、当時崇拝されていた聖人を描いた宗教的なテーマを持っているそうです。

アントニーン・ドヴォルザーク博物館

本人が使っていた眼鏡やヴァイオリン、ピアノ、家具、ケンブリッジ大学名誉音楽博士号を授与されたときに着ていたガウン、手紙、楽譜など、ドヴォルザークに関する様々なものが展示されています。



[気をつけること]

チェコでは謙虚さと慎み深さを尊重します。大声で話したり、周りを見ずに人々の邪魔になったりすることは辞めましょう。そしてチェコの文化を尊重し、学ぶ姿を見せましょう。

[チェコ語]

こんにちは Dobry den (ドブリー・デン)
ありがとう Děkuji (ジェクユ)

ジェスチャーをつけたり、笑顔でいったりすることを心がけながら、気持ちの良いコミュニケーションが取れるようにしたいです。